

# D1 Trend Method Basic Style Text ( I )

## 第2章 基本テクニック (手法基本手順)

# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第1ステップ トレンドを探す①

### ■ トレンドは PO（パーフェクトオーダー）の有無で判断

トレンドは、【テンプレート①】を使って探します。その方法は、日足チャートに表示している3本のEMA（指数平滑移動平均線）の並びがPO（パーフェクトオーダー）の有無を確認して判断します。そして、確認後、POが有ればそのチャートはトレンド中と判断します。

従って、ここでの判断作業の結果での行動は、

- PO（パーフェクトオーダー）【有】の場合  
⇒ 第2ステップへ
- PO（パーフェクトオーダー）【無】の場合  
⇒ 別の通貨ペアで再度確認 or 当日のトレード中止

とします。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第1ステップ トレンドを探す②

### ◆PO（パーフェクトオーダー）とは？

PO（パーフェクトオーダー）とは、3本のEMA（指数平滑移動平均線）が期間日数順に並んでいることを指します。

#### ●上PO（パーフェクトオーダー）の場合（右上図）：上昇トレンド

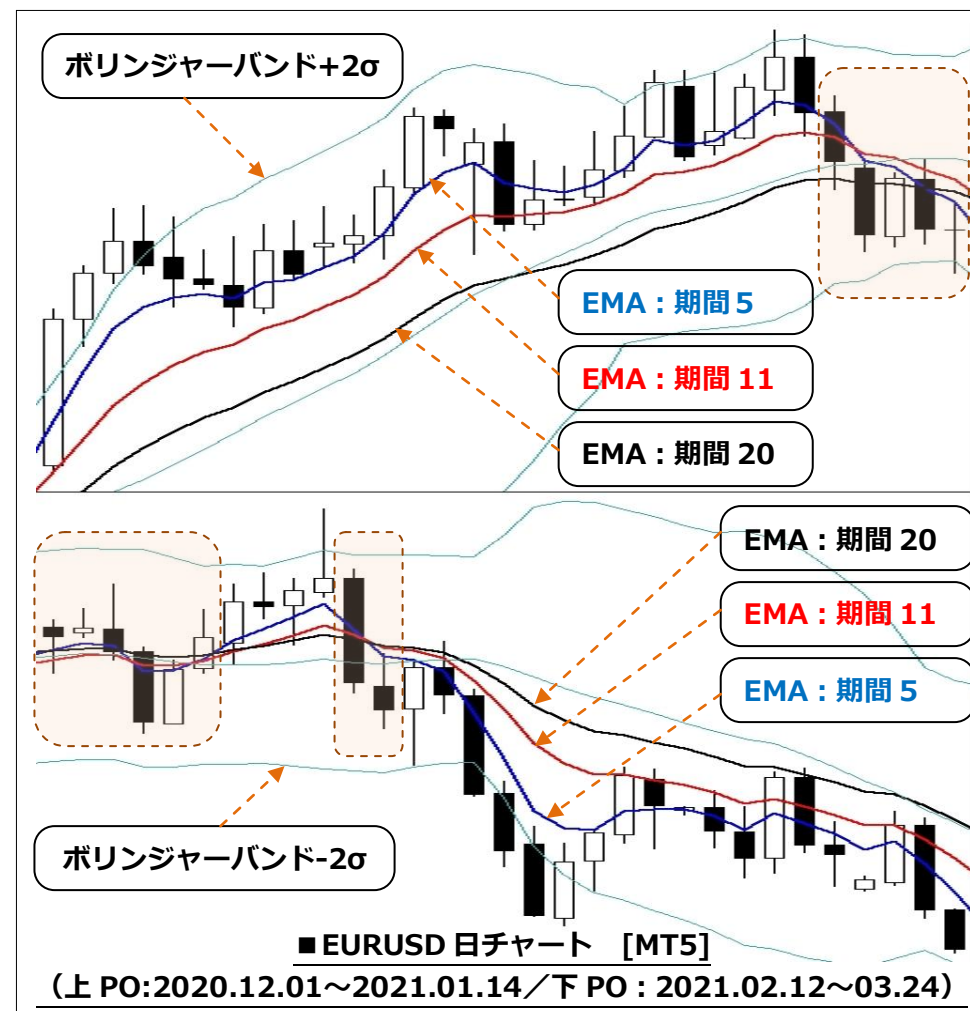
- 一番上：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 5
- 真ん中：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 11
- 一番下：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 20

#### ●下PO（パーフェクトオーダー）の場合（右下図）：下落トレンド

- 一番下：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 5
- 真ん中：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 11
- 一番上：EMA（指数平滑移動平均線）：期間 20

右図は、EURUSD の日足チャートの PO を示している部分になります。

※点線で囲っている部分は PO（パーフェクトオーダー）ではない部分です。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第2ステップ 押し目ポイントを確認する①

### ■ 押し目ポイントはインジケータと現在の価格との位置関係で判断

3本のEMAと $BB \pm 2\sigma$ の4本のラインと現在の価格との位置関係で、押し目判断時間チャートを分類します。

#### ● 位置関係で分類される4つ

A :  $BB \pm 2\sigma$ より外側に価格がある場合

⇒ 30分チャート

B : EMA (5) にタッチ or 外側に価格がある場合

⇒ 1時間・2時間・3時間・4時間チャート

C : EMA (11) にタッチ or EMA (5) 手前に価格がある場合

⇒ 2時間・3時間・4時間・6時間チャート

D : EMA (20) にタッチ or EMA (11) 手前に価格がある場合

⇒ 4時間・6時間・8時間・12時間チャート

と分類します。従って、位置関係を確認したら分類した時間足チャートで押し目の確認をしてください。

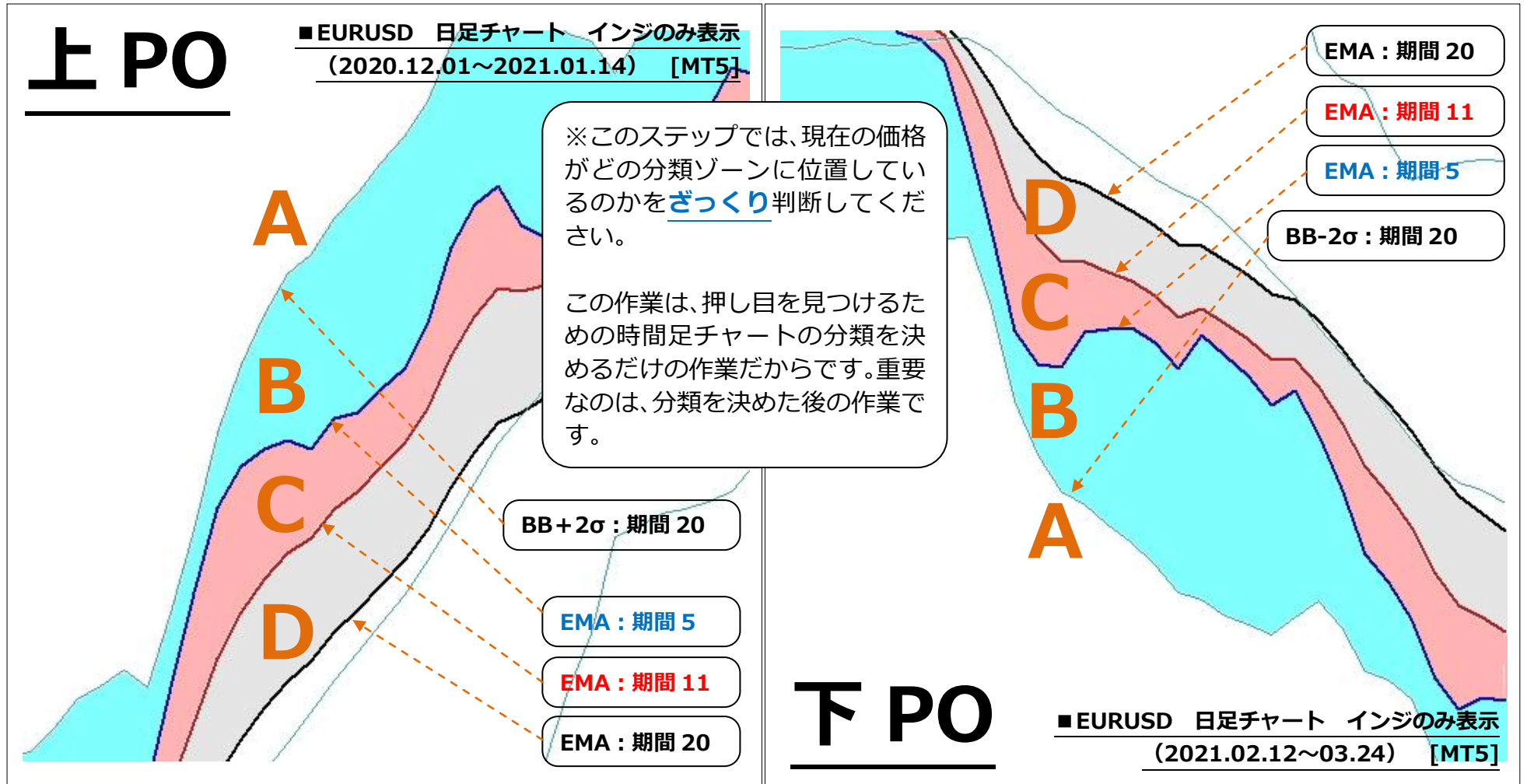
この分類に関して、文章だけでは分からないと思いますので、次ページにてわかりやすく図を上げています。加えて、詳細解説動画も用意していますので、そちらも確認してください。特に、このポイントは、テキスト（文字）だけでは伝わりづらいテクニックになるので、必ず図や動画で補足してください。

最後に、この分類は、あくまで目安としての分類と考えてください。基本は、この分類の時間足チャートが押し目になる確率がかなり高いですが、FXチャートは常に違う状況になっていますので、稀にこれに当てはまらない瞬間があります。

その場合の対応としては、『柔軟に対応する』か『当日はトレードしないと判断する』というなどの対応をお願いします。オススメは後者です。理由としては、あえて難しいポイントでトレードをやる必要はありません。

# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第2ステップ 押し目ポイントを確認する②



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第2ステップ 押し目ポイントを確認する③

### ■分類した各時間足チャートで、BB±2σにタッチしていることを確認

これは押し目を探す作業です。なので、各時間足チャートの

- ・上 PO（パーフェクトオーダー）中なら、BB-2σタッチ
- ・下 PO（パーフェクトオーダー）中なら、BB+2σタッチ

を確認してください。そして、確認後、

#### ●BB±2σタッチ【有】の場合

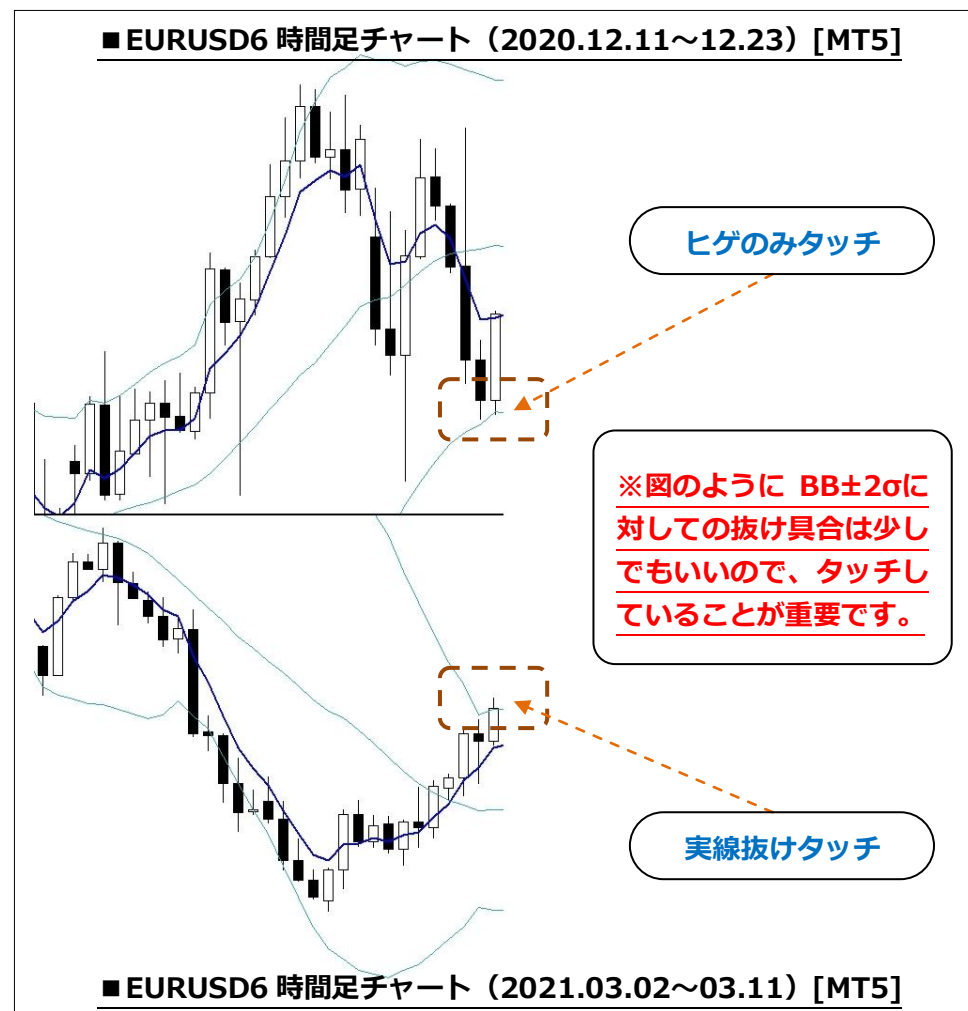
⇒ [第3ステップへ](#)

#### ●BB±2σタッチ【無】の場合

⇒ [別の通貨ペアで再度確認](#) or [当日のトレード中止](#)

#### ◆タッチの定義とは？

BB±2σに対して、ローソク足が【ヒゲ】でも【実線】でもいいのでタッチしていることです。タッチしていない場合、【押し目になっていない】と判断します。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第3ステップ 反転ポイントを見つける①

### ■反転は、 $BB \pm 2\sigma$ にタッチ後、EMA(5)を進行方向にローソク足実線抜けて判断

反転の判断ポイントは、

●上 PO (パーフェクトオーダー) の場合、 $BB - 2\sigma$ タッチ後、EMA(5)を陽線ローソク足で実線抜けしていること。(右図参照)

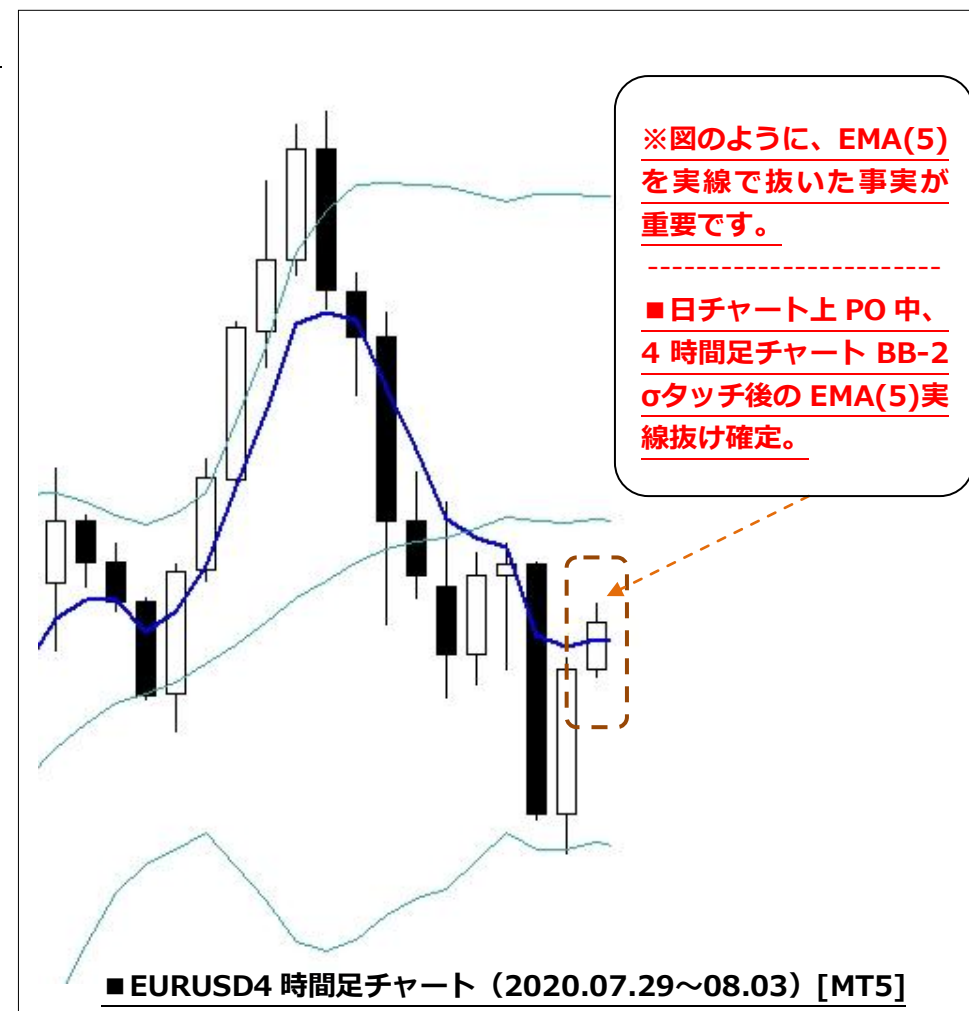
●下 PO (パーフェクトオーダー) の場合、 $BB + 2\sigma$ タッチ後、EMA(5)を陰線ローソク足で実線抜けしていること。

を確認してください。その上で、

●確認が出来たチャートは、【反転済み】と判断

●確認が出来なかったチャートは、【反転予定】と判断

どちらの状態でも、トレード戦略別に作業が続きます。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第3ステップ 反転ポイントを見つける②

### ■ 【反転済み】と【反転予定】で考えるべきトレード戦略は2つ

- 【反転済み】の場合

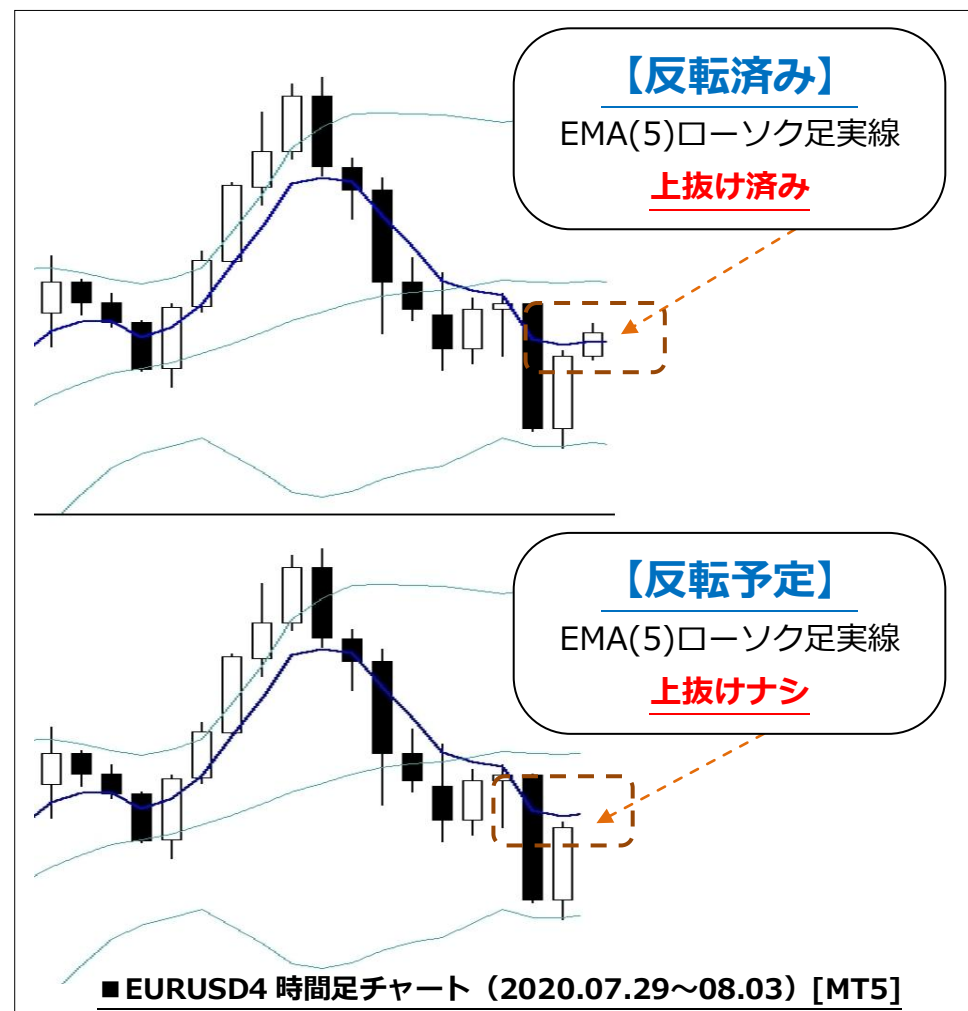
⇒ すでに反転確定と判断して、第4ステップへ

- 【反転予定】の場合

⇒ まだ反転確定していないが反転する可能性があると判断して、第4ステップへ

« ワンポイントアドバイス »

【反転予定】の場合、近未来に対して『反転するだろう』という可能性で、次のステップへいくので、近未来のチャートをイメージすることが重要です。





# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第4ステップ トレード準備①

### ■ 損切り・利益確定ラインの確定

◀ 損切りライン定義 ▶

● 上 PO 判断の場合（右図参照）

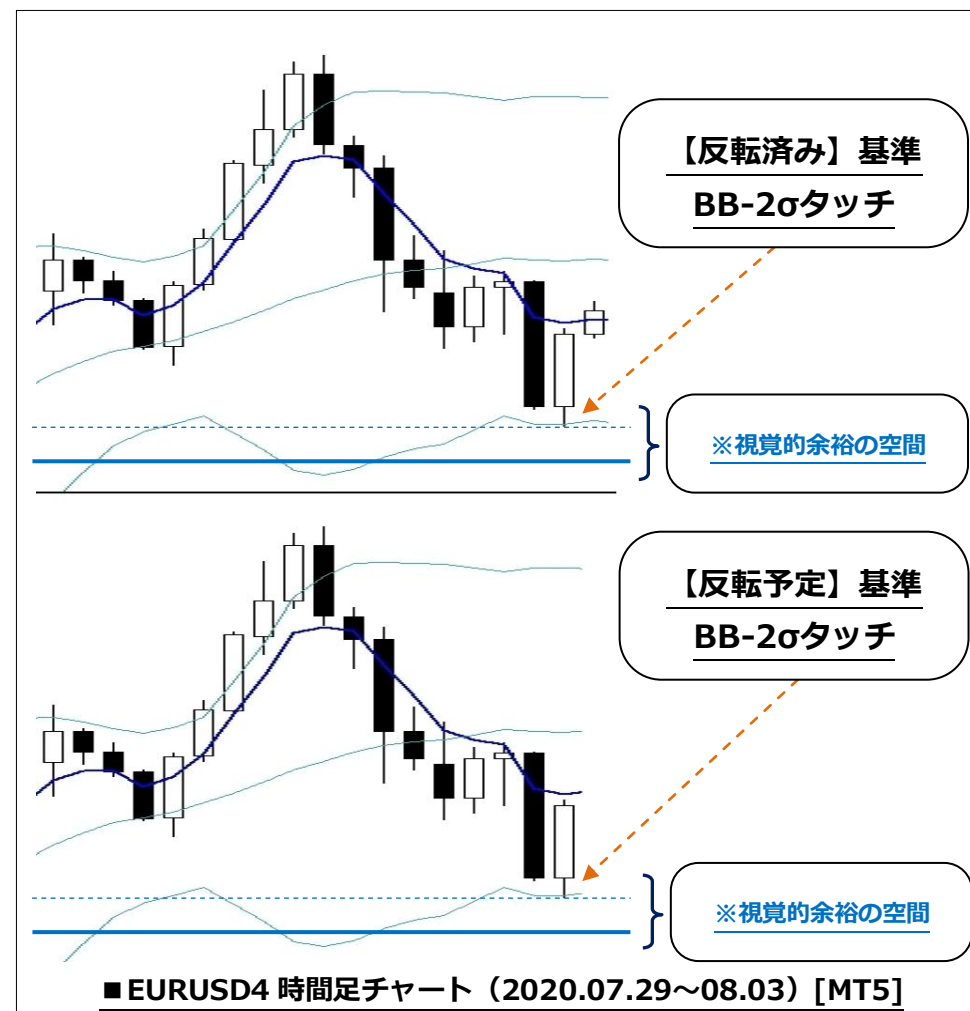
⇒ BB-2σタッチローソク足最安値ヒゲ下を基準に視覚的に空間が見える程度の余裕を持たせたポイントにラインを設定

● 下 PO 判断の場合

⇒ BB+2σタッチローソク足最高値ヒゲ上を基準に視覚的に空間が見える程度の余裕を持たせたポイントにラインを設定

#### ※ 下を狙う場合の注意事項

余裕を持たせる空間は下を狙う場合、上を狙う場合より気持ち広くしてください。ローソク足が sell 表示の場合、スプレット分が見えないので、ギリギリ損切りされることがあるため。ask 表示の場合は、逆になります。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第4ステップ トレード準備②

### ■ 損切り・利益確定ラインの確定

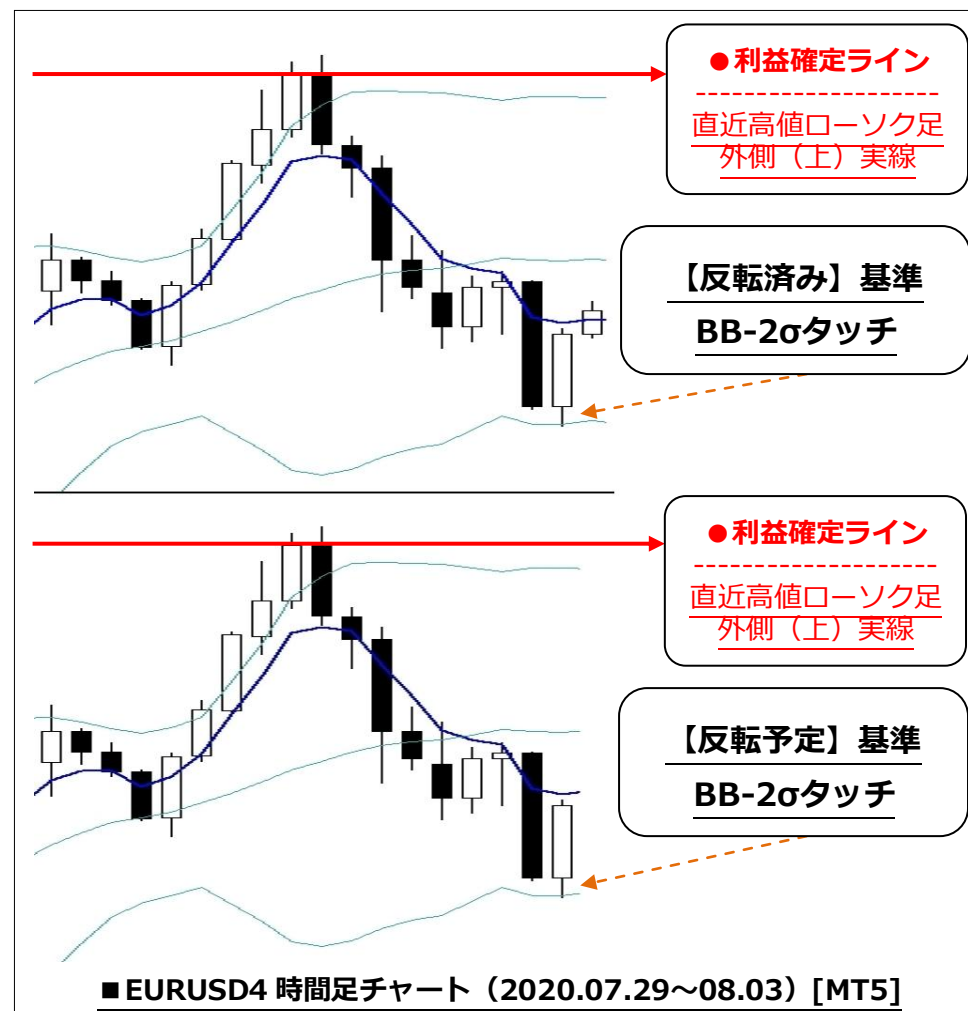
◀ 利益確定ライン定義 ▶

● 上 PO 判断の場合（右図参照）

⇒ BB-2σタッチの押し目ポイントの同時間足チャートの直近上にある頂点ローソク足外側（上）実線を利益確定ラインと設定

● 下 PO 判断の場合

⇒ BB+2σタッチの押し目ポイントの同時間足チャートの直近下にある頂点ローソク足外側（下）実線を利益確定ラインと設定



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第4ステップ トレード準備③

### ■ 利と損のバランス確認①

#### ● 利幅と損切り幅の考え方

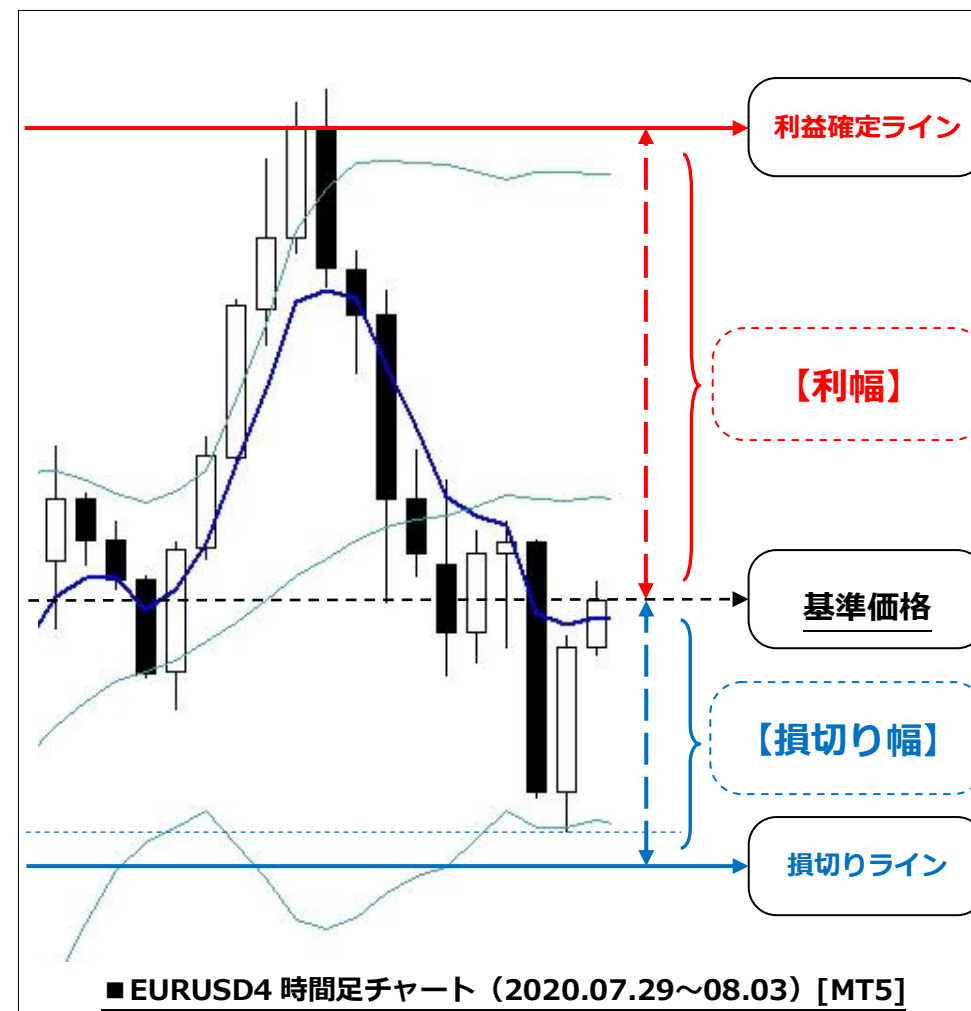
トレードを開始しようとするポイント（価格）を基準にして、

- ・ 基準価格から利益確定ラインまでの幅を【利幅】
- ・ 基準価格から損切りラインまでの幅を【損切り幅】

と設定します。

#### « 注意事項 »

トレードを開始しようとするポイント（価格）は、あくまでおよその価格と理解してください。FXの価格とは、常に動いているものです。なので、自分の予定・予測した価格でエントリーすることは、指値エントリー以外ほぼ不可能です。従って、バランスを計る幅に関しては、【大きめの損切り幅】に【小さめの利益幅】で考えることを推奨します。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第4ステップ トレード準備④

### ■ 利と損のバランス確認②

#### ● 利幅と損切り幅の対比バランス確認

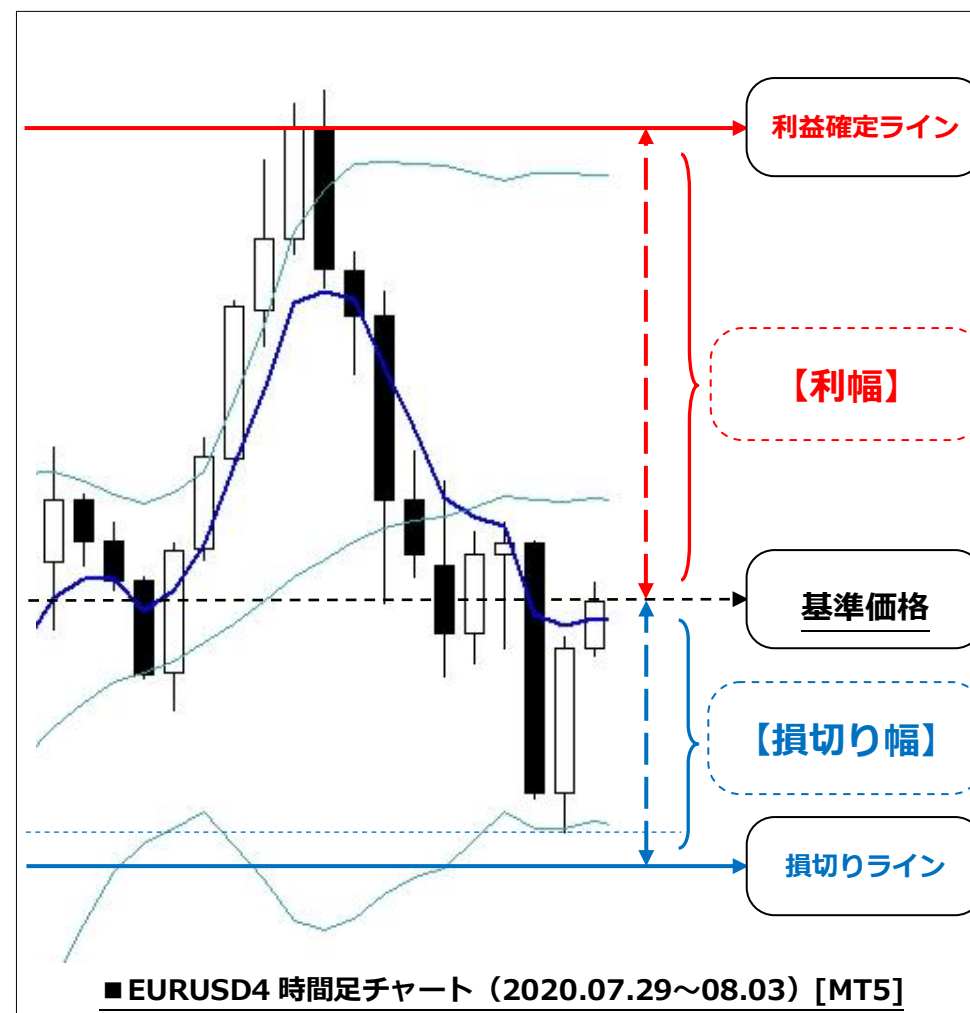
前項で導き出した【利幅】と【損切り幅】を対比させます。ここで考えるべきポイントは、【損切り幅】を【1】とした時の、【利幅】が【1以上】であることです。

#### ◆ 【損切り幅】：【利幅】 = 【1】：【1以上】

※【1以上】の定義は、【1.0】でも【1.1】でも【1.3】でも【2.0】でも大丈夫です。しかし、【0.9】や【0.8】では、ダメです。

この結果、

- ・【OK】の場合、トレード最終確認OKとして、第5ステップへ
- ・【NO】の場合、トレード不可と判断して、別通貨を探しに行くか、当日のトレード中止と判断します。



# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## 第5ステップ トレード最終準備①

### ■ 損切り幅に合わせた枚数（Lot 数）計算

#### ● 投資資金に対してリスク【2%】で枚数を計算

⇒ 計算した枚数を入力してエントリー開始

第4ステップまでに行ったトレード行うための条件確認をすべて条件クリアと判断することで、トレード開始OKとなるわけですが、最後にトレードに対してどれだけのリスクを持つのかということを決める必要があります。いわゆる、【リスク管理】と言われるものです。この【D1 Trend Method Basic Style】では、始めるにあたって初期段階でのトレードリスクはFX投資資本（口座に入金した金額）に対して、【2%】を推奨します。これは、FXが、技術面だけでなくメンタルも必要であることにつながるのですが、ここについては、別紙 or 動画で解説しているのでそちらを確認してください。しかし、トレードに慣れてくれば、リスクを【3%】、【5%】と多く持つことは問題ありません。しかし、FXトレードの初期段階に関しては、メンタル対策も含めて投資リスクは【2%】を推奨します。

この【リスク管理】の枚数計算は、毎回変わりますので、ご自身の計算をお願いします。

しかし、この枚数計算を簡単にする【リスク管理数量計算表】をご用意していますので、そちらを活用して頂いても大丈夫です。この使い方に関しては、別紙と動画で解説していますので、使い方が分からない方は、そちらで確認してください。

◀ 注意事項 ▶

第3ステップでの【反転予定】の場合、EMA(5)をローソク足実線で抜けるまで確定していないので、予測として【損切り幅】を用意しなければなりませんので、余裕を持った数値を予測しておくことが必要です。この部分に関しても、動画で解説しているので、確認してください。

# 第2章 基本テクニック（手法基本手順）

## ■押し目時間チャート総合参考図（押し目反転 OK から利益確定までの軌跡）

